



2022年7月24日(日)～9月11日(日)



## 展覧会概要

甲冑・刀装具・能面・手箱・屏風・絵巻など、様々な展覧会で公開されているこれらの作品は、通常は「表」あるいは「正面」を鑑賞できるように展示されています。箱の内側、屏風の裏側、あるいは能面の裏側はどうなっているの？といった疑問を持たれる方も少なくないでしょう。

贅を凝らして作られた作品は、裏や内側まで華美に装飾されたり、別の作品が装幀されたりする場合もあります。また、裏側には作者のサインなど、作品を知る上で欠かせない情報が残される場合もあります。

本展覧会では、普段なかなか目にする機会がない、様々な作品の裏・内側を紹介するとともに、目に見えない面に施された仕掛けとその意義を考えます。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 特別展 お宝のうら！なか！そこ！
- ◆会場 徳川美術館本館展示室
- ◆会期 2022年7月24日(日)～9月11日(日)
- ◆開館時間 ※期間中展示替あり(前期：7月24日～8月16日・後期8月17日～9月11日)
- ◆休館日 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観覧料 月曜日(但し、8月15日(月)は臨時開館)  
一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円  
※企画展「祭りの世界一風流(ふりゅう)と仮装一」展と共通  
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円 ※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆出展作品数 83件
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 読売新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

## 取材について

2022年7月23日(土)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館 講堂

展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材。

企画展「祭りの世界一風流(ふりゅう)と仮装一」のプレス内覧会も同時に開催いたします。

・内覧会開催日に限らず、取材は随時承ります。

・動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。

## 第一章 不思議！？裏面の仕掛けと仕組み

裏面に全く別の内容が書かれている書物、裏面から絵具で彩色されている絵画、果実の皮に漆を塗って作られた漆工芸品、貝の裏から色を塗った螺鈿細工など、通常の表面の鑑賞だけでは見破ることが難しい仕掛けが、裏面や内側には様々に隠されていることがあります。この仕掛けに気がつくことが、作品の仕組みのみならず、作者の狙いや製作背景など、さらなる作品の理解に繋がっていきます。

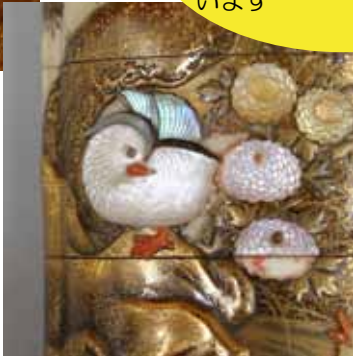
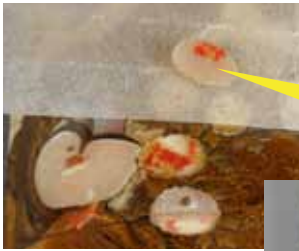
また、甲冑や火縄銃など、複雑に組み立てられた武具は、それぞれの部品を展開し、その表裏の隅々まで観察することで、ようやくその仕組みを知ることができます。まずは「裏面鑑賞」の第一歩として、意外と知られていない裏面の仕掛けや仕組みを見ていきましょう。



### 松鴛鴦時絵象牙印籠 銘 芝山作

松が枝を伸ばす岸边には、大輪の白い菊や、野菊と思われる紅色の花が咲き乱れ、つがいの鴛鴦が憩う景色が表された印籠です。

この印籠は螺鈿に裏彩色が施されています。菊花に使用されている貝殻の色は白色ですが、わずかに桃色に見えます。これは、貝殻を貼る接着用の膠にかわに朱の絵具を混ぜているため桃色に見えることが、近年の修復によって分かりました。



白い貝殻の花を桃色に見せるため、朱色の絵具を膠にかわに混ぜて使うことで、色がほんのり透ける効果を狙っています

## 第二章 裏面は情報の宝庫

作者、製作年代、あるいは製作地といった情報は、作品自体に記されていることがあります。すぐ思い浮かぶのは絵画で、絵の隅に作者が落款らくかん（署名・捺印）を入れることがよくあります。一方、装束や調度品などの工芸品では、表に堂々と情報を記すことは稀で、多くは裏面や内側に作者や製作年が記されています。作者名が作品の格式にも繋がる鑑賞絵画と、身の回りで実際に用いられる工芸品という違いもあるでしょう。

工芸品では作品に記された作者名などの文字や、その他の書きつけられた文章を「銘」と呼びます。これは作者自身が入れる場合もあれば、後世に付け加えられる場合もあります。



### 踏皮（白革足袋） 四足の内

徳川家康の鹿皮製の足袋です。いずれも足の裏が汚れていることから、実際に家康が着用していたとみられます。この足袋によって、家康の足のサイズも二十三センチ程であったことも分かります。

さて、この足袋には内側に「長八」「市蔵」などと人名が記されています。これは足袋を製作した職人の名とみられています。



足袋の内側を覗くと「市蔵」の文字が、製作者のサインと考えられています。

表：四季花鳥図屏風 伝狩野山楽筆 六曲一双の内 右隻 (参考画像、非公開)



当館を代表する名画の一つ、伝狩野山楽筆「四季花鳥図屏風」の裏に貼られた「群鶴図」です。江戸時代には、婚礼などの盛儀のために誂えられた屏風には、裏にも別の絵が貼り付けられることがありました。

「群鶴図」は表の「四季花鳥図」よりも製作年代が下るため、後世にハレの空間を飾るために両面図屏風に仕立てられたとみられます。

なんと、同じ屏風のオモテ・ウラ！表は今回見られません



裏：群鶴図屏風 六曲一双の内 右隻 (8月17日～9月11日公開)

### 第三章 裏面・内面も豪華絢爛

日本文化・美術を形成する上で欠かすことのできないのが「かざり」です。神仏に捧げるために美しく荘厳された宝物、武士が命を懸ける戦場で身につけた華やかな武器、大名家や公家などが贅をこらして誂えた調度品、これらは表面のみならず、裏面や内側、時に底の裏面までも美しく飾り立てられ、非日常の場を演出しました。中には、実用性を度外視して装飾されることもあります。また大名道具では、表の一面だけで完結する絵画でさえも、婚礼や将軍が家臣の屋敷を訪問する御成といつた格別の盛儀では、屏風の裏表に絵を貼る特別な絵画も作られています。表面以外に施された驚くべき装飾の世界を紹介しましょう。

### 第四章 展示の裏側 びんやびん収納してらるる

美術館の展示では、作品を収納箱から取り出して作品のみを展示します。しかし、収納箱にも作者や伝来情報が残されていることがあり、作品を理解する上では欠かせません。さらに収納箱は、所有者が変わる毎に追加製作されたり、装飾が施されたりと、作品が如何に大切に受け継がれてきたのかを物語る重要な道具でもあります。また徳川美術館では、馬標や征矢など、その形状に合わせて特別に用意された収納箱、刀や能面など数百もの作品を一括して収納する簞笥など、大名家ならではの収納方法を現代に受け継いでいます。展示の「裏」として作品の収納箱もご紹介します。



収納箱の中にまで美しい絵画作品が！

#### 葵紋扇散蒔絵鼓箱

能で演奏される鼓を収納する箱です。器面は梨子地に金・銀の薄板を文様に切って貼る金貝と蒔絵で扇を散らした優美なデザインです。蓋を開くと、蓋裏に大きく葵紋が一つ、身の内は金銀泥で描かれた秋草図が全面に貼られた別世界が広がります。金銀といってもキラキラとした濃彩ではなく、掠れを伴う繊細な筆致によって光が抑えられて、秋風になびく草花が描かれています。



表は白鳩、裏は龍

白鳩・龍図軍扇 (8月17日～9月11日公開)

戦場で命を懸け闘う武士たちは、仏教などに由来する図様を軍扇の表裏に用いることで、軍扇に神秘的力を託し込め、その軍扇で指揮を執ることで、戦の勝敗をも左右すると信じられていました。この軍扇の表には武運の神である八幡神の使いとされる白鳩、裏には仏法を守護する龍が描かれており、軍扇に神仏の力を宿していたことが分かります。

## 展覧会関連イベント

### ◆夏休み子ども企画

小・中学生を対象に「お宝のうら！なか！そこ！」展をわかりやすく紹介します。楽しく鑑賞するためのワークシートを配布し、「ギャラリー・クイズ」を実施します。

期 間： 2022年7月24日（日）～8月31日（水）

### ◆学芸員の見どころトーク「お宝のうら！なか！そこ！」

講 師： 薄田大輔（当館学芸員）

日 時： 2022年7月31日（日）午後2時～2時30分（開場：午後1時30分）

会 場： 徳川美術館 講堂

定 員： 各60名 当日会場にて先着順・入館者聴講自由

参加費： 無料（入館料別途要）

### ◆土曜講座「大名道具のウラ側」

講 師： 薄田大輔（当館学芸員）

日 時： 2022年9月3日（土）午後1時30分～（開場：午後1時）

会 場： 徳川美術館 講堂

定 員： 事前申し込み・先着60名（満席のため申込締め切り済）

受講料： 800円（入館料別途必要・空席がある場合のみ当日先着にて受付）

## 視聴者・読者プレゼント提供

特別展「お宝のうら！なか！そこ！」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。

※こちらのチケットで企画展「祭りの世界—風流（ふりゅう）と仮装—」もご観覧いただけます。



## お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



徳川美術館  
The Tokugawa Art Museum



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



企画展 祭りの世界—<sup>ふりゅう</sup>風流と仮装—

広報画像申請書 使用期間：～2022年9月11日



No.1  
群鶴図屏風 六曲一双の内 右隻  
〔四季花鳥図屏風〕伝狩野山楽筆 裏面  
江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵  
公開期間 8月17日～9月11日



No.2  
四季花鳥図屏風  
伝狩野山楽筆  
江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵  
(参考画像：非公開)



No.3  
踏皮 (白革足袋) 四足の内  
徳川家康着用  
江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵



No.4  
踏皮 (白革足袋) 四足の内 (部分)  
徳川家康着用  
江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵



No.5  
葵紋扇散蒔絵鼓箱  
江戸時代 17世紀



No.6  
葵紋扇散蒔絵鼓箱 内側  
江戸時代 17世紀

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL : 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX : 052-935-6261

担当 : 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp